

コロナ時代のもえぎの会

社会福祉法人 もえぎの会
理事長 野村 和成



2020年は新型コロナウイルス感染症の出現で、大変な年となっています。新型コロナウイルス感染症が話題になってから半年以上経ちますが、いまだに明確にならないことが多く、毎日情報が更新され、それに伴う対応もその都度変更されることがあります。コロナについては、様々な考え方や対応があり、正しい答えが一つ存在する訳ではありません。もえぎの会は、事業の継続を基本とし、1日も休業することはありませんでした。障害者や家族が、日常生活をする上で困難があり、その困難を軽減する支援をするために、法人を設立し、事業を運営しています。したがって、事業の継続は、障害者・家族に必須であり、社会的な責任があると考えています。

利用者・家族やスタッフの中には、不安を感じる人もいますので、それぞれの気持ちを大切に活動しています。事業を継続するためには、徹底した感染防止策を実施して、安全性を確保することが重要です。100%の安全は、今日においてもありませんが、できる限りの対策を実施するために、スタッフは、困難に立ち向かい、一人一人が考え、みんなで協力して、検討し、実行するというプロセスを繰り返しています。スタッフにとっては困難な状況ですが、「若い時の苦労は買ってでもせよ」という言葉があるように成長するために必要な状況であり、与えられた試練でもあります。ピンチをチャンスに変えて、一人一人の力が向上し、チームの力も向上していると確信しています。

もえぎの会は、秋には、恒例の宿泊研修旅行やしいの実祭の大きな行事が控えています。現在の状況において、当然、例年のような実施はできません。これらのイベントは日常の活動に加えて、利用者には、癒しの活動であり、地域の皆様に理解を深めていただき、支援をしていただく重要な行事です。そのため、安全を考えて中止をするのではなく、コロナ時代のイベントとして安全対策を十分に考え、目的を達成するために、可能な企画を実施したいと考えています。

1978年に活動を開始したもえぎの会は、地道な実践の積み重ねで、小さな集団から始まり、少しずつ規模を拡大してきました。2000年に社会福祉法人の認可をいただき、事業を開始してから、事業拠点は、1か所から7か所に、13名からスタートしたスタッフは60名を超えるに至りました。法人の運営として、「自助自立」の精神で、スタッフ、家族、役員が一体となって、時間を使い、体を使い、頭を使い活動しています。今回の新型コロナへの取り組みを経験して、さらに、前に進む決意です。それにより、支援の質の向上、サービスの拡大、地域連携の拡張、運営の安定などをもたらしたいと考えています。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

第19回 ウイズコロナのリモートしいの実祭開催のお知らせ

11月28日のしいの実祭は、例年通りの実施はできませんが、地域の皆様と交流し、理解を深めていただくしいの実祭の目的を達成するために、可能な祭を実施します。

休むことなく作業を継続し、製作している製品を通じて皆様に理解していただける方法として、製品のカatalogをお届けして、商品を選択していただき、後日、お渡しします。当日は、安全に配慮して、商品の販売・受け渡しを実施します。

しいの実社の徹底した感染症対策 実践の一部紹介 施設長 小平真理



玄関 業者の方やお迎えの方もなるべく玄関外での対応。
館内 一日数回の消毒。換気。
相談室(休憩室) 対面にならない机の配置。

ランチ

マスクを外すランチ時はより入念に対策、対面を避け、いす数を減らし一度に食べる人数を減らし、食べ終わったらひとつひとつ消毒をします。

ご高齢の方は少人数で部屋をわけて食事をしています。

受託作業



高齢の方・基礎疾患をお持ちの方が多く受託部門はより念入りに対策しています。密接をさけるためパーティションをつけ、人数を減らすため別室も利用しています。

着替え

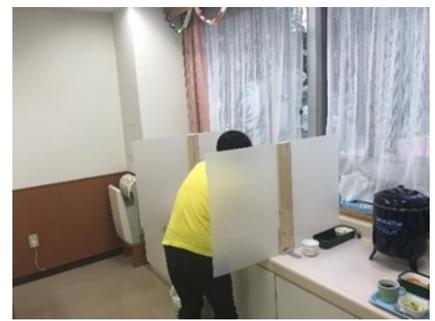
更衣場所の拡大、移動、着替える人を

減らす、時間差をつけるなどで更衣室内の人数を減らしています。換気をよくするためドアを撤去して、暖簾式のカーテンへ変更しました。

スマイルプラザ

感染リスクのあがるランチ場面では、席を決め、パーティションで仕切り、別室も利用し人数を減らし、食後はマスクをつけておしゃべり休憩をするようにしています。

ランチ時にマスクを衛生的に管理できるように個別のマスク置きで



管理。歯ブラシをする場所にはパーティションを設置。

学芸大学ショップ

レジ周りには飛沫防止のビニールシートを設置。パンは個別に袋に入れ、トングは撤去。接客後の手洗い消毒の徹底。店内は換気をし、入店は一度に3名様までとして、安心して買物をしていただける対策をして営業をしています。



しいの実社の感染症対策の考え方

施設長 小平真理

これまで経験したことのない、未知のウィルスへの感染防止対策に奮闘してきました。しいの実社にはご高齢・基礎疾患を持つ方も通所されており、通常は一つの建物に80人以上が活動しています。

緊急事態宣言の中、しいの実社は開所を続けてきました。希望して休む方はいましたが、多くの方は通所することを選びました。通所にはリスクがある一方で「仕事」があり、「役割」「居場所」があり、生活のリズムや健康と豊かな時間をつくっています。そんなことを再確認する機会ともなりました。

感染が拡大する中で、利用者の健康を守り、安定した日常を維持するため、工夫を重ねました。マスク着用の徹底、換気、密を避けるための別室利用や配置の工夫、着替えやランチ時間の時差と人数制限、パーティションの設置、手洗い回数増、一日数回の館内消毒、各入口に消毒液配置、入館時の手指消毒や制限、来館者の記録、検温、リモート会議など、できる感染対策をすべて講じるとともに、スタッフによる感染症の勉強も頻繁に行いました。

健康診断、宿泊研修旅行など、恒例の行事も姿を変え、ウィズコロナに変化しています。しいの実社では、これからも新しい生活に合せ利用者の豊かで安全な生活を守るため工夫を続けていきます。

宿泊研修旅行に代わるランチ会

新型コロナウイルスへの徹底した感染防止対策をして実施することが難しいと判断し、非日常を体験する活動として毎年行っていた宿泊研修旅行を中止としました。代わりに目黒雅叙園の宴会場を貸し切り、ウィズコロナ日帰り外出企画としてランチ会を開催いたしました。

実施にあたっては、感染対策を講じ安全に実施できるか検討を重ね、参加の希望をとりました。2m以上離れソーシャルディスタンスを保てる部屋の貸し切り、席配置や常に換気するために4つの扉の開放、専用のマイクロバスでの少人数単位の送迎、アルコール消毒の徹底など、1つ1つ先方の担当者と確認しながら企画を進めました。

ほぼ全員の利用者が参加し、食後、感想を聞く場面では「おいしかった」「来年も来たい」と口々に楽しそうに感想を話してくれました。その顔を見ると実施して良かったと安堵の気持ちです。そして、このような中でも前向きに協力してくれる職員にも感謝の気持ちでいっぱいです。この企画は、後援会の支援により実施できました。ありがとうございました。



食事前に園内散策



雅叙園バスで密回避



選んだ料理に舌鼓。満足！満足！

MATTERHORN マッターホーン

目黒区鷹番3-5-1
TEL: 03-3716-3311
<http://matterhorn-tokyo.com>

「マッターホーンは1952年創業。東横線学芸大学で鈴木信太郎画伯の包装紙と共に一店舗主義を貫いております。」という文言から始まり、学芸大学で70年近い歴史を持ち、今も行列ができる名店です。

金子亮一社長をお訪ねして、長く愛され続けている秘訣などをお伺いしました。取材に訪れた日も、お客様が途切れることなくケーキを買い求める方、喫茶室でお茶とケーキを楽しまれる方がいらっしゃいました。



マッターホーン店舗の入口

金子亮一社長ご夫妻は、50名の従業員を抱えながらも一人一人のお客様を大切に、店頭に立たれています。

そこでお客様の声をお聞きし、できるかぎり商品に反映するなど取り組みをされています。所属する商店街のイベントの景品や目黒区のふるさと納税の返礼品などを引き受け地域への貢献もされています。

もえぎの会とのご縁は、10年以上前からですが、最近ではお店で使用する箱の下準備をする作業などをしいの実社で受託させていただくようになり、距離がさらに近くなったように思います。

金子社長の趣味は、相撲観戦で、巖屋の部屋や力士を巡って直接激励することもあるそうです。

最後に、もえぎの会に対してしいの実社で受けている仕事で非常に助かっているという感謝の言葉をいただきました。忙しい中でも暖かく迎えてくださった社長や奥様、従業員の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいになりました。



金子亮一社長

株式会社 石福

目黒区 鷹番1-1-9
TEL 03-3712-5371

しいの実社から5分ほどの目黒通り沿いに店舗を構えておられる株式会社石福の石崎美恵子夫人にお話を伺いました。お店が港区から今の目黒区鷹番に移られたのは、夫人のお父様の代からです。

お手入れされた緑と、個性あふれるモチーフの石の作品が並んだショーケースと、きらりと輝く石の建物が目を引くお店です。中に入ると、鈴木政夫氏の手による暖かな表情をたたえた丸みの帯びた作品や、商品である墓石が並んでいます。

墓石の中で、一番人気と質が高いのは、庵治石。それまでは、東京では小松石の人気が高かったそうですが、都会の過酷な環境にも強い強度があるということで人気が上がっているそうです。



石福 店舗の入口

商品以外に目についたのは、法人会からの感謝状やご巖屋のお客様、円融寺で節分のお手伝いをされている写真です。お話を伺っている中でも、お客様には少しでも良い品を安く売りたいという思いと墓石を購入されるお客様を紹介していただくお寺の方との関りを大切にされているご夫妻の誠実さが伝わってきました。また商店街からは少し離れた場所ですが、商店会にも所属しておられます。この誠実さや繋がりを大切にされる姿勢こそが、お墓を持たないという人も増えてきている現代に、商売を長く続けていける秘訣に違いないと感じました。



石崎ご夫妻

これまさクリニック

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、面談によるインタビューが困難の中、また、ドクターとして多忙の中、これまさクリニックの仲吉隆院長にメールを通して、お応えしていただきました。仲吉院長は、地域の皆様の「かかりつけ医」として、これまでに培った技術・経験を生かし、『わかりやすい説明』、『的確な診断・治療』、『高度医療の提供』を心がけておられ、土日も診療されています。

患者様と接する上で、一番大切にしていることは、「相手の目をしっかりみながら、話をしっかり聞き、なるべく医学用語を使用せず、わかりやすい言葉で話をすることです。患者様の不安が解消され、なるべく早く体調がよくなるよう適切なアドバイス、対処ができるようにします。」ということでした。地域の活動としては、医師会に所属し、市から委託されている健康診断などを通して、地域の方の健康維持に役立ちたいと思われています。



入口にて仲吉隆院長



これまさクリニック

大学時代に所属していた部活の監督のご家族がしいの実社で活動しているということで、監督ご家族には、在学中大変お世話になったので、何かお役に立ちたいと思もえぎの会后援会に加入していただいたということです。

クリニックには、知的障害をもたれている方も、受診されるようですが、「やはり、相手の目、顔、しぐさで、こちらの話している内容が理解できているか確認しつつ、診療するようにしています。」ということです。

先生の趣味は、子供の頃から球技が好きで、大学時代は野球部に所属し、今は、なかなか上達しないとおっしゃっているゴルフに熱中されています。

現在のコロナ禍の状況に、「新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には、心よりお見舞い申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大により、今までと異なる生活様式を強いられています。これからも人との繋がり、縁を大切に、この苦難を乗り越えられればと思っています。」というメッセージをいただきました。

新規後援会員をご紹介ください

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上
会費はお手数ですが、直接お持ちいただくか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会后援会

問い合わせ先 もえぎの会后援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家、本部事務局

沙羅

コロナ禍の沙羅の家 大岡山

施設長 長谷茂雄

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一時期マスクやトイレットペーパーが入手しづらい状況がありました。沙羅の家大岡山では、ある朝郵便受けにそっとマスクが投函されておりました。お名前もなく、どなたが投函してくださったかは分かりませんでしたが、お心遣いにとっても温かい気持ちになりました。

グループホームの事業に関わる者として今回のコロナ禍で改めて感じたことは、この事業は利用者の生活基盤を支援する、とても大切な事業であるということです。これまで当たり前にあった「日常」がとてもありがたいこと。世間では休業したり、リモートワークに切り替えたりすることで、人と人との接触を減らし感染拡大を予防していますが、直接対人支援が業務の根幹であるグループホームでは、そのような「非日常」に移行できる部分は限られています。

沙羅の家では、3つの原則に基づき対策を徹底するように職員一同心がけております。

1. 伝染しない

- 手洗いや手指消毒の徹底
- よく触れる箇所の消毒
- こまめな換気

2. 伝染させない

- マスクの着用

3. 重症化させない

- ストレスを溜めない、免疫力を下げない生活習慣



何度も何度も
丁寧に手洗い



コロナ禍のもえぎの会 事務局

事務局 岡田なおこ

沙羅の家清水は、2018年3月に開設し、グループホーム・短期入所・地域生活支援拠点の3つのサービスが同時に始まりました。

短期入所は、法人として初めての事業で、当初は体験利用が中心でした。経験を蓄積した今年度は、緊急利用受け入れの拡大を目指して、職員とともに検討を重ね、シフト変更を伴う職員体制を整えました。

地域生活支援拠点は、コロナ禍でなかなか対面で相談したり、外に出ていったりできませんが、実績も増えて順調に進展しています。

もえぎの会は、緊急事態宣言発令のころは、沙羅の家は利用者にとって生活する「家」であり、しいの実社は、大所帯を抱え利用者・ご家族とともに高齢化が進んでおり、社会的責任として運営を継続する必要があると職員全員で、確認しました。新型コロナウイルス感染症に対する、不安もあり、緊張感を特に強く感じました。

小さなしいの実社の事務係から始まったもえぎの会の事務局は、課題を抱えながら実績と経験を積み重ね、両事業を力強く支える柱となるように取り組んでいます。

さらに、目黒区から介護・障害福祉サービス事業者特別給付金、目黒区障害者団体懇話会から慰労金、もえぎの会後援会から職員へ感謝の金一封、またもえぎの会を応援して下さる方やご家族から、多くのご寄付をいただきました。アルコールやマスクも手が入りにくい時期にご寄付をいただき、皆様のお気持ちがとてもありがたく、職員も励まされる思いでした。この場を借りてお礼申し上げます。

編集後記

沙羅の家清水が加わり、事務局を立ち上げ1年半が経ちました。まだまだ内外から教わる機会が多く未熟な点もありますが法人の根っことなる部分ですので、さらに強化して参ります。これからもよろしくお願ひします。(岡田)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3
(法人本部)

電話：03-5724-7153

e-mail : shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

